

協働パイロット事業 (H28) 企画提案書

団体名：かるがもレスキュー

1 事業の名称

災害避難時、排泄に待たなし！
「竹チップ利活用～防災トイレ作り講習会」

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください)

方針

静岡市環境創造課「竹チップ」と「防災」と「主婦の市民団体」のコラボレーション
放置竹林の課題を、直接市民に訴えるより、防災トイレ作りの一環として間接的に竹チップに興味を持ってもらう方法で、結果、大量の竹の伐採と大量消費を試みる。
野外活動時、トイレの排泄の前後に、静岡市環境創造課より貸し出しされる竹破砕機で竹を粉碎した竹チップを撒いてみたところ、竹の消臭効果と吸水力で匂いが消え排泄物の処理が楽になることがわかった。
市民の関心事である地震に対する防災意識に着目し、防災トイレ作りの普及活動をする際、竹チップの活用を提案する。

目的

- ① 「一家に一つ防災トイレ (3日間の排泄を自己管理)」を合言葉に、「防災トイレ講習会」を毎月一回開催し、竹チップを配布する。
- ② 「うしづま冒険あそび場」(静岡市葵区牛妻)で野外活動を楽しむ参加親子に、防災の一環として設置してある簡易トイレを体験してもらい竹チップを使用してもらう。
- ③ 竹伐採から竹チップにするまでの「竹破砕機講習会」を企画する。
- ④ 主に主婦層に日常の中で身近な竹チップの活用法を試してもらう。

協働で取り組む意義

災害避難所での衛生的なトイレ環境作りの一助に竹チップを。
現状、草の根的に竹林を整備し、竹チップを暮らしの中で活かしていこうとする行政、NPO、地主、農家はあるが、竹は市民にとって身近な資材となりきれていない。竹といった原料の身近さとは裏腹に、販売価格が高く入手先も限られるために、気軽に使えるものではないためだ。放置竹林の問題を、一般市民に広めるために、楽しく得をする企画を考察していく。
課題を知ってもらうためには、放置竹林に出向いてもらうことが理想だが、竹林に行かずに触れてもらう方法を考えたとき、そのとっかかり役に竹チップに着目した。
最終的なターゲット層は、竹林の持ち主と竹林の付近の住民ではなく、主婦層に置く。
主婦の関心事である「防災」や「家事」に竹チップを活用してもらう。
無料で静岡市の主婦層の手に渡れば、新たな活用方法が生まれ、更なる消費拡大が期待できる。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

静岡市（環境創造課）に望むこと

- ・ 「竹チップ利活用～防災トイレ作り講習会」共催
- ・ 静岡市職員の方と当団体による、うしづま冒険あそび場での定期的な竹チップ作りの共同作業
- ・ 広報活動
- ・ 竹破碎機作業場や竹チップ配布場所の募集

当団体の役割

- ・ 事業企画・募集・受付・当日の進行
- ・ 会場確保
- ・ 講師派遣、材料購入などの事前準備

2016年4月、かるがもレスキューでは、「うしづま冒険あそび場」という、地元地域の方と参加者で、何もない更地から里山づくり（自然体験）をする企画をスタートしました。

その活動のテーマの一つに、「防災体験」があり、ダンボール製の簡易トイレを設置しており、各自での排泄物の持ち帰りを試みてもらっています。

その排泄物の消臭アイテムとして竹チップの存在を知り、竹チップを量産したく、今年4月初めて竹破碎機講習会の行政サービス受けました。

職員の方には親切丁寧な指導をしていただき、放置竹林問題の取り組みも大変興味深く、私たちが参画できたらと思いました。

しかし、晴れて受講証をいただいたものの、私たち主婦層の市民団体にとって、軽トラックを調達し竹破碎機を借りることは困難で、定期的に竹破碎機をレンタルする環境、竹チップを入手できる環境が無いことがわかりました。

静岡市との協働が可能となれば、かるがもレスキューが、窓口となり、竹破碎機講習の受講後に竹チップを作れる場所の提供と、竹チップに興味のある市民（個人、団体問わず）の受け皿になれるのではないかと考えました。

4 事業計画・実施スケジュール

主な実施内容

① 「竹チップ利活用～防災トイレ作り講習会」

公共施設にて、災害時のトイレの重要性を知り、ダンボール製の簡易トイレ作りを行う。あわせて竹チップを配布。放置竹林問題を説明し竹チップの活用について話し合う。

対 象：「防災トイレ作り」に興味のある方どなたでも

時 間：10：00～12：00

場 所：静岡市内公共施設（静岡市番町市民活動センターを予定）

会 費：工作材料費として500円（未定、打ち合わせにて決定）

事業期間：平成28年7月～平成27年2月のうち、月に1回8回実施

② 「竹チップ配布 in うしづま冒険あそび場」

既にスタートしている「うしづま冒険あそび場」の親子プログラム（別紙参照）終了後に、竹破碎作業を実施、竹チップを配布する。

対 象：竹チップが欲しい方どなたでも

時 間：12：30～13：30（予定）

場 所：うしづま冒険あそび場（静岡市葵区牛妻）

会 費：無料（未定、打ち合わせにて決定）

スケジュール：

H28年5月

- ・講師との打ち合わせ・講座内容決定（毎回、前月に次月講座の打ち合わせをする）
- ・静岡市との打ち合わせ

H28年6月

- ・会場手配、予約
- ・チラシ作成・印刷
- ・市と広報について打ち合わせ
- ・チラシ配布及び告知、参加者募集、予約申込開始

H28年7月～翌年2月まで 8回実施

- ・講座使用物品準備
- ・参加者名簿作成
- ・参加者へ参加確認の連絡
- ・企画終了後、商店とカフェトークでの意見を下に商店との打ち合わせ

H29年3月

- ・報告書の作成

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

主要スタッフ

氏名	担当	経歴
高田 たまき	統括	かるがもレスキュー代表
靱矢 かおり	トイレ作り補佐	デイサービス介護職経験者
西村 規子	進行	プログラミング事務経験者
鈴木 由美子	託児	保育士・介護士資格所有
靱矢 富江	託児	うしづま冒険あそび場のオーナー
杉山 智一	トイレ作り講師	数々の災害を経験、こども工作出張講師
小関 勝則	竹伐採	野外活動インストラクター、竹製ドーム作り講師

代表 かるがもレスキュー 高田たまき（静岡市子育て支援連絡会所属）

2013年4月より、「公益財団法人静岡市まちづくり公社」のチャレンジショップ企画の支援を得、静岡市葵区「ミライエ呉服町」にて活動開始。当時3歳になる娘と共に、自身の特技を活かしながら地域社会とつながりたく、パソコンの事務の代行業と市民活動の一環として、未就学園児のお出かけ先を増やすための親子講座の企画を始める。

以後、静岡市子育て支援連絡会に所属したことをきっかけに、さまざまな子育て支援団体や行政、商店街などと連携を持ちながら活動の場を広めている。

6 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など)

専門性

市民の関心事「防災」をキーワードに、竹チップに着目。それから放置竹林の課題と向き合う

マスコミ報道で、トイレ問題が注目されたのは、熊本第地震から10日目のことだった。

2016年4月24日静岡新聞より

「避難所の体育館で4月23日、ノロウイルスの集団感染の疑いが発覚した。断水のため、トイレのバケツにくみ置いた水を通じて感染が広がった可能性がある。避難生活の長期化に伴う衛生面の悪化が、健康被害につながった形だ。」

過去の大震災の反省が活かされない避難地でのトイレ事情が、現在熊本市でも起こっている。排泄に待たなし! 「まずは食料」ではなく、「まずはトイレ」「まずは衛生管理」を。震災の教訓を無駄にすることなく、即実行可能な協働事業となるだろう。

実現可能性

1. 静岡市葵区牛妻の山間に竹破砕を使用可能な場所が確保できていること
(私有地につき、防音シートなどの工夫は必要)
2. 防災トイレ講習会実施経験のある講師とスタッフの確保ができていること
3. かるがもレスキューの楽しい講座の企画力
実績として、前年度、年間48本の講座実施で参加者延べ600人の方が参加し、口コミでリピーターの参加者も増えている。今年度は1,000人を目標にしている。
今までの企画制作の経験を本事業にも十分に活かしていけると考える

モデル性

竹チップを作れて・使えて・楽しいワークショップ

竹チップ活用法は多様で、農業利用、家庭の生ごみコンポスト、防災トイレの資材としても分解効果や消臭効果を発揮している。

「防災トイレ作り講習会」や「うしづま冒険あそび場」の中でも、主婦層に暮らしの中で活かしてもらえるような、竹チップの可能性を探って楽しむワークショップも開催していきたい。

協働パイロット事業 (H28) 見積書

団体名: かるがもレスキュー

企画のタイトル: 災害時、排泄に待たなし!

うしづま冒険あそび場「竹チップを利活用～防災トイレ作り講習会」

平成28年7月～平成28年2月のうち、月に1回、8ヶ月間開催で通算8回実施

項目	金額	説明
講師謝金	80,000	10,000×1名×8回
アシスタント謝金	64,000	2,000円×4名×8回
公共施設会場費	20,480	2,560×8回
チラシデザイン謝金	10,000	
広告費(チラシ・のぼり印刷)	14,000	チラシ代6,000円 のぼり2,000×4本
講師交通費	6,080	バス代@760円×8回
スタッフ交通費	17,600	ガソリン代@25×往復22km×8回×4人
防音シート	21,000	竹破砕機防音シート(厚手)1.8×3.4 3枚入
防災トイレ工作材料費	10,000	ダンボール、カッター、ガムテープ@500×10個×8回
リクリエーション保険代	16,000	エース損保保険(H28.7～H27.2契約)
雑費	20,000	配布資料代、インク代、会議費
事務管理費	20,000	
小計 A	299,160	
消費税 B=A×0.08	23,933	
合計 A+B	323,093	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な使途
40,000円	単価500円 参加者10人 実施8回	講習にかかる材料費